

# グループワーク 意見まとめ

R7.11.25 第4回十日町”みんなの学校”プロジェクト

テーマ	分類	No	内 容	班
地域や社会との連携・協働体制のあり方	キャリア教育	1	企業と協力してキャリア教育を行う	1
		2	地域の企業からの業界説明・企業紹介を通じたキャリア教育	6
		3	地域の職業人による出前授業の実施	1
		4	地元企業との交流	6
		5	地域ならではの職業教育（デュアルシステム）	2
		6	アントレプレナーシップ教育の充実	2
		7	まちの産業発見塾の継続	2
		8	産業界からのアプローチ	2
		9	ITなど地元企業とのコラボ事業	6
		10	旧市町村単位の暮らしや仕事のプロと連携した社会教育	6
		11	オンラインも活用しつつ世界とつながる地域産業と連携した社会教育	6
		12	農業や農家との関わり	3
		13	生産者さんとの連携	3
		14	きもの	2
		15	本物志向	2
		16	学校の教科のカリキュラムで教えきれないものを住民を教えられると良い	1
		17	人生の目標・夢の作り方を教える	1
		18	友だち同士のコミュニケーションのコツ	1
		19	クラブ活動に市民サークル・企業・市役所各課がワークショップ	4
		20	職場体験施設	1
	コミュニティスクール・地域学校協働本部	21	コミュニティスクールの推進	3
		22	コミュニティスクールの認知度向上	7
		23	地域学校協働本部の設立	7
		24	学校支援地域本部に各地域の代表が入る	4
		25	学校と地域をつなぐ窓口の常設	2
		26	振興会窓口の設置	4
		27	全コミュニティとの連携の強化	3
		28	学び・理解・発信・継承ができる連携・協働	3
		29	地域で子どもを育てる環境作り	3
		30	地域ごとのボランティアやコーディネーター	7
		31	地域コーディネーターの様々な役割を複数名で	7
		32	校内に地域の拠点や基地的な部屋を設ける	5
		33	コーディネーターやボランティアの校内の居場所	7
		34	公共施設の利用	3
		35	大きな家	3

テーマ	分類	No	内 容	班
地域 や 社会 との 連携 ・ 協働 体制 の あり 方	地域人材の活用	36	地域人材	1
		37	各地域の特色を共有するために歴史を知る人達から伝えてもらう	1
		38	地域の方に講師をしていただく授業	2
		39	地域の歴史を地域の方からお話を聞く	2
		40	地域の人々を講師に	5
		41	地域学習で地域の方から学ぶ	6
		42	市民が講師となり継続的な授業を行う	7
		43	地域の人が先生に	7
		44	伝統技術の継承の場になる	1
		45	地域人材や地域ボランティアの活用	6
		46	読み聞かせや校外学習など地域の方の学習ボランティア	6
		47	義務教育後の進路や就職にOBやOGからも関わってほしい	6
	体験活動・奉仕活動	48	地域の施設に校外学習として出かけていく	1
		49	学年ごとに旧市町村に遠足や社会見学に出かけてほしい	6
		50	歴史・文化・伝統・人材・産業が色々体験できる	3
		51	地域文化の体験・継承	5
		52	田んぼや畑など地域の方との活動体験	4
		53	米も作っちゃう	6
		54	山遊びで自然の文化交流	6
		55	地域の方との奉仕活動ができる場	4
		56	クリーン作戦実施	4
		57	生徒による地域ボランティア活動	6
		58	地震時など電子レンジを使わない調理法	1
	地域行事への参加	59	地域行事	1
		60	各地域の伝統や歴史などが学べる行事への参加	4
		61	地域行事や祭りへの参加	4
		62	生徒の地域ごとの行事への参加	5
		63	地域行事への参加	6
		64	地域の伝統行事への参加・継承	6
		65	地域ごとの伝統行事への参加	7
		66	各地域行事の掲示板の設置	4
		67	学校で地域ごとの行事の発表	5
		68	地域住民とともにイベントを開催	6
	ふるさと愛・ふるさと学習	69	ふるさと愛を高める	1
		70	出身地域の文化を学び合い発信する双方向カリキュラム	1
		71	探求的な学びで地域のことや課題を学ぶ	5
		72	学年ごとに文化・伝統・仕事などを学ぶ	5
		73	ふるさと十日町を愛する子を育てるためにふるさと学習の充実	7
		74	地域ごとのテーマを決めて学習	7
		75	地域のことを知る環境作り	3
		76	市全体の地域資料	1
		77	大地の芸術祭	1
		78	地元に帰ってくる子や地元に関わり続ける子を育てる	5

テーマ	分類	No	内 容	班
地域 や 社会 との 連携 ・ 協働 体制 の あり 方	地域との交流・世代間交流	79	地域との世代間交流	1
		80	特異なことを持つ地域の方と関わる	2
		81	年代が違う人との関わり	2
		82	学校に人が来る	7
		83	学校外へ生徒が出る	7
		84	地域ごとの活動の設定	7
		85	地域により縦割りのグループ	7
		86	地域の茶飲み場	7
		87	地域×学校イベント	7
		88	地域の方から学べるような小学校区のお年寄りとの対話型バス待ち	2
	公民館との連携	89	部活動やクラブ活動と公民館活動（サークル）との連携	1
		90	公民館・市民センターと学校の連携	2
		91	保育園・小学校・中学校・公民館一体の体制が当事者としての連携・協働を生む	2
		92	公民館と協力し、事業を通して地域や文化を知る	4
		93	公民館活動と一体的に	6
		94	公民館集会所機能の連携体制	7
		95	公民館事業との一体化	7
		96	校内コードや学校支援コードに公民館がコラボ	4
		97	多くの人に関わる	7
	安全・安心	98	安全性の確保	7
		99	声の掛け合いや助け合いなど防犯対策	4
		100	放課後の子どもの居場所	1
		101	放課後の居場所	7
		102	スクールカウンセラー	1
		103	スクールロイヤー	1
		104	企業等が見守る仕組み	1
	部活動地域展開	105	スポーツ	1
		106	スポーツ特化	7
		107	スポーツ・文化芸術経験者からの協力	1
		108	プール、陸上競技場、野球場、体育館など市の体育施設	1
		109	高校や高校生とのつながり	1
		110	色んな場合でのボランティア	1
	学校と地域の連携	111	学校と地域が同じ目標に向かう	1
		112	学校と地域が一体となって協力する	1
		113	地域が学校の応援団になる	1
		114	地域の社会資源の活用	2
		115	高齢化をキーワードとした学校と地域の連携	5
	多様な学校施設	116	地域の方も利用できる図書館	2
		117	地域の方も利用できるプール	2
		118	十日町みんなの学校ギャラリー	4
		119	十日町みんなの学校ホール	4
	保護者連携	120	保護者連携	1
		121	保護者が学び合う学習の場の設定	1
		122	保護者の参加	5

テーマ	分類	No	内 容	班
地域・協働や社会制とのあり連携方	小学校や保育園との連携	123	各地域の小学校とどう連携をとるか	1
		124	保育園・小学校とともに活動できる体制	3
	廃校利活用	125	廃校利用はどの程度か	1
		126	地域住民とのコミュニケーションの場所は公民館や残念ながら廃校となった校舎	1
	地域の課題	127	地域に根付きすぎて外に出れない	3
		128	地域の”自分”が強すぎて決められない	3
	団体サポート	129	各種団体の発信力をサポートする	5
		130	各種団体を整備して再編を図る	5
	その他	131	バス・バス運転手	1
		132	人の組み方が大切	2
		133	大学のようなキャンパス型	2
		134	都市と里との交流教育内地留学（デュアルスクール）	2
		135	1年間内地留学可能な学区オープン制度	2
		136	雪国での暮らし	3
		137	中学3年間で詰め込み過ぎではないか	3
		138	各地域ごとの連携は学校とは切り離す	5
		139	十日町万博	5
		140	旧市町村単位に最低1校はサテライト機能のあるコミュニティ施設があってほしい	6

テーマ	分類	No	内 容	班
通 学 条 件 ・ 方 法	公共交通	141	バスや鉄道など公共交通機関との連携	1
		142	公共交通の充実	5
		143	路線バスや列車の利用	7
		144	基本は電車・バス	7
		145	高校生と同じでよい	3
		146	路線バスの活用	1
		147	路線バスが利用できる	3
		148	路線バス	3
		149	最寄りのバス停からバス通学	5
		150	鉄道が利用できる	3
		151	電車	3
		152	飯山線・北越急行の鉄道利用	1
		153	ほくほく線と飯山線の維持もしたい	6
		154	バス会社やタクシー会社との協力体制	7
		155	コミュニティバスを活用	6
		156	地域の人も高校生も皆が利用できるバス	1
		157	地域の人も利用できるスクールバス	7
		158	地元企業タクシーを活用	6
		159	路線バス・鉄道無料	1
		160	学割など市の補助	5
		161	地域住民も安く乗れる	7
		162	熊対策でバスや電車	3
	スクールバス	163	スクールバス	1
		164	バス通学must	1
		165	スクールバスでしっかりとした送迎	4
		166	スクールバスの運行	5
		167	スクールバス使用	7
		168	スクールバスの確保	7
		169	各地域にマイクロバスやハイエースを配置	2
		170	ワゴンタイプ車両のスクールバス	7
		171	モニター付きスクールバス	3
		172	G P S 機能付きスクールバスの利用	3
	複数手段の組合せ	173	スマホで予約	7
		174	バス停や駅が徒歩20分以内でなければスクールバス	3
		175	スクールバスはなるべくピストンしない台数で	6
		176	学校の立地にもよるがスクールバス、列車、自転車、徒歩	4
		177	なるべく通学時間短縮できるように電車＋バスなど	6
		178	スクールバスに路線バスの活用を	4
		179	スクールバスで駅へ、駅から列車	4
		180	中心地の場合、スクールバス & 電車	5
		181	遠い場合は公共交通＋スクールバス	6
		182	駅からのバス運行	5
		183	駅までスクールバスで、電車を活用	6
		184	一部区間スクールバスが必要	1
		185	居住地～中継地～学校の乗り換え通学	7
		186	帰りバスの選択制	4
		187	スクールバス、路線バス、鉄道、自転車、徒歩、タクシーを整備して不足なし	2

テーマ	分類	No	内 容	班
通 学 条 件 ・ 方 法	バス停・待合所	188	待ちづらくならないようにバス停を整備する	1
		189	学校だけでなく停留所も雨風から守れるようなバス停	4
		190	乗車場所を10分程度に設定	4
		191	小中学区をポイントにバス待ちまで歩く	2
		192	バスや鉄道の待ち時間に過ごせる施設	1
		193	旧市町村単位 of バス待合所が必要かも	6
		194	学校や地域に待合所	7
		195	学校→部活動の場→帰りの送迎	7
	通学時間	196	通学時間「概ね1時間以内」が目安	1
		197	通学時間1時間	4
		198	バス通学時間は45分以内	1
		199	基本40分以内	6
		200	時間は30分～40分まで	5
		201	ストレスがない通学時間が良い	3
	寄宿舍・宿泊施設	202	冬季の宿泊施設	1
		203	厳冬期寄宿舍	4
		204	寄宿舍・下宿	5
		205	宿舎	5
		206	冬季下宿	6
		207	寄宿舍	7
	冬季対応	208	冬季間の工夫	1
		209	冬季でも安全な通学や運行体制	4
		210	山間地が多いが冬季を考えてスクールバスを運行し、しっかり送迎してほしい	4
		211	冬季間の安全運行の確保	7
		212	冬季の通学ルートの細分化	7
		213	冬季の登校時間を遅くする	1
	スクールバス運営	214	バス等の運転人材の確保	1
		215	運転手の確保	7
		216	バス運転手など地域NPOからの協力	1
		217	地域社会との連携	2
		218	スクールバスの運営は外部へ	7
		219	スクールバスこれ以上は厳しい！	7
	自転車通学	220	自転車	1
		221	安全な自転車通学	1
		222	4km～6km程度は自転車の活用	1
		223	道路状況の安全確認や定期的な講習を行い自転車での通学	4
		224	通常は自転車、降雪時期はバスなど	3
	学校立地	225	学校の立地によって交通手段も変わってくるのでは	1
		226	電車を利用しやすい学校の位置	1
		227	電車通学を活用できるよう駅近くに学校を	6
		228	駅近くに学校がある	6
		229	保護者みると高校と近い学校の配置	1
	サテライト校	230	廃校になる校舎をサテライト校として避難的に登校して使えるようにする	1
		231	旧市町村単位に1校はサテライト施設の配置を	6
		232	毎日通学×なら数日通学数日サテライト	6
		233	冬季サテライト	7
		234	厳冬期はサテライトの各小学校に教師が出向く	4

テーマ	分類	No	内 容	班
通 学 条 件 ・ 方 法	新たな通学方法	235	ライドシェアによるタクシーサービスを利用した通学	5
		236	保護者による代行業務	5
		237	保護者送迎の許可	6
		238	旅客と貨物が一緒に乗るスクールバスへの貨客混載	7
	交通管理・連絡ツール	239	位置情報を把握できる交通管理が必要	4
		240	部活時の連絡ツールの許可	3
		241	金沢市の路線バスを見習う	3
		242	大雪時の通学対応	3
	ＩＣＴの活用	243	ＩＣＴの活用	6
		244	リアル必須授業とオンライン可能授業の見極めを	6
		245	災害発生しやすいときはリモート可	7
		246	分散型学習を地域産業の中心にＩＣＴをうまく使いコーディネート を大切にして	2
	安全対策	247	徒歩圏内の地域の危険マップ	1
		248	通学路	1
		249	道路や歩道の整備・延長	3
		250	クマ対策	7
	学校を選択	251	行きたい学校に行けるように学区をなくす	2
		252	市内２～３校ならどこに就学しても良い	5
		253	大規模校・小規模校を自由に選べるように	5
		254	条件はフリー	5
	遠距離生徒対応	255	学校から遠い生徒が苦にならない利便性	1
		256	山間地生徒の負担軽減	1
		257	保護者の送迎を前提としない	1
	徒歩通学	258	安全な徒歩通学	1
		259	なるべく歩くも取り入れられるような通学	2
	通学時間の活用	260	バスの中ではタブレットで地域学習	4
		261	スクールバス等の通学時間を受験での活用方法	4
	待ち時間の活用	262	コミュニティ小中スクールとなるようなバス待ち時間を活用してお 年寄りに協力してもらい対話型時間に	2
		263	待ち時間を対話お年寄りに協力	2
	教育活動の工夫	264	荷物を減らす	1
		265	帰宅時刻や部活動終了時刻など教育活動の工夫	7
	その他	266	送迎用ターミナル	1
		267	ヘリポート	5
		268	無人バス	5
		269	旧学校をまわる１日巡回バス	7
		270	大規模校化にならないように	2
		271	やはり２～３校に	5
		272	通学特区であり雪里留学実績あるまつのやま学園の存続を	6